

一 争議団ノ行動
 連日争議団本部ニ参集シ例ノ如ク幹部等ヨ
 リ反覆激励セラル、外特異ノ行動モ無ク而
 モ前途尚豫測スヘカラザルガ爲メ困憊ニ加
 フルニ倦怠ヲ以テ職工団ノ氣勢漸ク衰ヘ
 ントスルモノアルノミナラズ生活上ノ脅威
 ヨリ今ヤ家族側ノ反対の氣勢昂ラントスル
 形勢ニ鑑ミ首記工場争議団ニ於テハ東京工
 場側ト合同シ昨京日午前九時ヨリ蒲田争議
 団本部ニ家族慰安會ヲ催シタリ未會家族約
 七十名(内女二名)ニシテ団員等ノ琵琶瑣奏數
 番ノ後鈴木勝因中原仙太郎ノ兩名ヨリ争議
 經過ノ概要ヲ演述シ續イテ末廣野坂龍子(野

坂)ニ意亦松克麿松因駒吉等文々瑣壇ニ起
 テ何レモ今次ノ争議ガ極メテ静謐穩健ニ秩
 序整然トシテ進展シワ、アルヲ賞揚シ且ソ
 最後ノ勝敗ハ誠ニ家族ノ援助如何ニアルヲ
 引例高調ニテ激励スル所アリシモ論旨概ネ
 總健ニシテ咎ムヘキモノ無ク最後ニ鈴木今
 里ノ両者ヨリ謝辞ヲ述べ午後三時無事散會
 ス

當日争議団員ノ出席數ハ家族ヲ出席セシメ
 タル爲メカ著シク減シ僅カニ百五六十名ニ
 過キスニテ例ノ如ク工場附近ニ警備員ヲ交
 替派出スル外何等ノ行動無カリシ
 一 會社側ノ行動